

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 佐久市中佐都保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。

「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 □ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 □ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	○佐久市の保育理念に基づいた上で本園を取り巻く状況や子どもの姿を踏まえた保育課程が作成されています。 ○保育課程、園の理念について職種に関わらず、全職員が理解し共通の目標に向かっていかれるよう、定期的な話し合いや園内研修の機会が望まれます。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	○保育室が清潔に保たれ、一人ひとりの子どもが安全に、自由に活動できる場として機能しています。 ○毎日の生活や保育士の話を聞いたりすることに集中できるよう、保育室の壁面、装飾が工夫されて居心地のよい環境設定がみられました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○一人ひとりの子どもの生活経験や家庭環境、また発達の個人差を理解し、保育士間で共有しながら個別に対応しています。</p> <p>○どの子どもも安心して生活や遊びができるよう、子どもの理解度等により言葉がけや支援の仕方を工夫していました。</p> <p>○子どもが自由にのびのびと生活し、また次の行動を自分で判断する力を育てるような言葉がけがみられました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○一人ひとりの子どもの生活リズムや個人差に配慮しながら「自分でやってみよう」という意欲が育つよう保育士は、待つ、その場に応じた必要な援助をする、というように幅広い判断と対応をしていました。</p> <p>○食事の場面では、食器の位置や姿勢などがわかりやすく示されマナーを身につけながら楽しく食事ができていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○園の特色として年長児の和太鼓への取り組みがあり、習得までの過程では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって頑張ろうとする力 ・友だちと力を合わせることの楽しさ ・できた、という達成感が育ち、またその経験を次の活動に活かせるよう保育士自身が資質向上を目指していることが伺えました。 <p>○遊びや生活を通して、自然な形で異年齢間の交流があり、小さい友だちへの優しさ、大きい友だちへの憧れなど豊かな人間関係が育つ機会があります。保育士も子どもの様子を見守り、必要に応じて関わり方の援助をするなど子ども自らの育ちを大切にしています。</p> <p>○豊かな自然の中で子どもたちが自分のしたい遊びを選択し、友だちとの関りを広げながらのびのびと活動する姿が見られました。</p> <p>○散歩や行事を通して地域の方に親しみを持ったり、マナーや社会生活のルールを知るなど様々な体験ができています。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> □ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○一人ひとりの発育や個人差を、担任する複数の保育士が共通理解し、情報を毎日詳細に伝え合う時間を設けています。</p> <p>○食事や午睡など生理的なリズムや個人差による生活のリズムに丁寧に対応できるよう保育士が分担し、どの子どもも安心して生活できるチームワークがみられました。</p> <p>特に睡眠時の様子には一時も目を離すことがないよう細心の注意を払い些細なことも記録に残しています。</p> <p>○保護者との連絡を密にし、家庭での生活の延長として無理のないリズムで園生活に入れるよう一人ひとり違う要求にも丁寧に対応しています。</p> <p>○感染などへの抵抗力が弱い乳児の特性を理解し室内の換気や除菌、オムツ交換後の処理など衛生面において細心の注意がみられます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 □ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を立ちまわっている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを工夫している。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○食事や衣類の着脱、清潔、排泄等基本的な習慣を身につける初歩段階の子どもたちに対し、一斉に行動させるのではなくやりたい気持ちややってみようとする気持ちに根気よく対応していました。</p> <p>○「できたね」「きもちいいね」とその子の目線に立って思いを共有する言葉がけがみられました。</p> <p>○指先の発達や感覚を刺激するよう、形や色、素材を工夫した手作りおもちゃが用意してありました。</p> <p>○年齢差の大きいクラス集団ですが、人数が多い分だけ子ども同士のトラブルも起きやすい状況です。自我の芽生えや自己主張に配慮しながら、噛みつきなど、それが起こりそうな気配や状況をいち早く察知したり、活動を年齢によって分けていくなど更に工夫が期待されます。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○基本的な生活習慣が無理なく身につくよう個人差に沿いながら、子どもが動きやすく、片づけもしやすいよう室内が工夫されていました。</p> <p>○鬼ごっこなど集団遊び、ルールのある遊びを意図的に取り入れ社会生活に必要な習慣が身につくよう保育をすすめています。</p> <p>○5歳児では太鼓の演奏という共通の目標を持ち習得までの過程で協調性、我慢、努力、認め合い、達成感などたくさんの気持ちを経験し、共感や思いやりなどの心が育っています。</p> <p>○室内にも小動物が飼育され子どもの興味や関心の広がりがみられました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 □ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 □ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○加配保育士の配置や職員間での情報共有など安心して園生活が送れるよう組織としての取組があります。</p> <p>○個別の指導計画が作成され配慮が必要な子どもへの適切な対応が行われています。</p> <p>○個別計画が担当する職員だけでなくクラスや職種の枠を超えてより詳細に共有できることを期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/>	59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	○長時間にわたる子どもが増えてきたことから、体制を整えたり遊びの場、遊具、時間を確保するなど、子どもにとって過ごしやすい環境が整備されていました。 ○早朝から夕方まで担当保育士が変わりますが保育士間で落ち度なく引継ぎが行われています。 ・言葉による連絡 ・専用ノートによる確認 ○長時間保育の保育内容について職員間のより綿密な共通理解が期待されます。
	<input type="checkbox"/>			60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。		
	<input checked="" type="checkbox"/>	61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。				
		⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/>	66 計画の中に小学校との連携や就学に関する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。	○年長児が小学校生活への関心を持った生活のイメージがしやすいよう隣接する小学校との交流が積極的に行われています。 ○保育園在籍期間で育ってほしい姿や入学当初の生活を園と小学校が確認しあい子どもの育ちを長期的な視点でとらえようとしています。 ○小学校と定期的に連携が行われ、育てたい力、望ましい姿の見通しをもって援助が行われています。
	<input checked="" type="checkbox"/>	67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしています。</p> <p>○日常生活を丁寧に観察したり保護者との連携を密にすることで健康状態の把握ができるようにしています。</p> <p>○発熱等の子どもが安心して保護者のお迎えを待てるよう、事務室との連携もよく適切に対応しています。</p> <p>○保護者に対して折に触れ、SIDSへの研修参加や情報の提供が行われていました。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○各種検診が計画に基づき実施されています。</p> <p>○佐久市全体の取組として年長児のフッ素による虫歯予防に努めています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギーの対応マニュアルが作成され全職員に周知徹底されています。</p> <p>○日頃の管理として生活の場を清潔に保ち、給食管理や緊急時対応が組織的に行われています。</p> <p>○しっかりとした対応や環境整備ができており、日頃の取組を多くの機会をとらえて保護者に知らせたり、職員がより高い専門性を目指そうとする意識が持てるよう、研修の場が設けられました。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○給食室の近くに「げんキッズ」の大きな手作り装飾があり、親しみやすく見やすい絵柄で子どもたちに栄養や食に関心が持てるような環境が作られていました。</p> <p>○楽しい雰囲気の中、食欲旺盛に食べる姿が見られました。</p> <p>○食育計画が作成され、調理員も含めた全職員で取り組んでいます。</p> <p>○体を十分に動かしておなかをすかせていただく、という基本的なリズムが意図的に計画され給食の前に「あーおなかすいた」という子どもの声が開かれました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食 べることのできる食事を提供 している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 □ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 □ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○一人ひとり、その子の体調や食べられる量、好き嫌いなどを把握して提供しています。</p> <p>○食材はできる限り地元産を使い季節感のある食事の提供に努めています。</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき安全で安心な食事の提供に努めています。</p> <p>・調理員間の連携がよく、時間内の提供、味付け、事故防止が徹底管理されています。</p> <p>○残食の状況を園全体で把握し、検討する機会を持ち、献立や調理の工夫に生かしていくことが期待されます。</p>
2	子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○園だよりや掲示板、連絡ノートなどを用いて活動を知らせています。</p> <p>○保護者からの信頼があり、安心して子どもを預けている、という声がアンケートの結果からも伺えました。</p> <p>○近年の保護者の状況等から、行事への参加の仕方や決まり事など、保護者負担がないか定期的な見直しがされています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○園の活動内容について保護者にわかりやすく丁寧に伝えることで保護者からの信頼を得ています。</p> <p>○保育士は子どもだけでなくその保護者についても理解しようとし、保護者が安心して相談したり援助を受けられるような姿勢がみられます。</p> <p>○保護者からの相談内容を全職員で共有し記録に残したりどの保育士も適切な対応ができるような園内研修が行われています。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○虐待や不適切な養育態度が疑われる家庭への対応マニュアルがあります。</p> <p>・園長を窓口とし常に全職員が情報を共有できるようにするとともに守秘義務にも十分配慮しています。</p> <p>○日ごろから子どもの心身の状態を観察したり保護者との関りに配慮しています</p> <p>○具体的な場面を想定した研修やマニュアルの見直し、確認を定期的に行い全職員に理解が行き渡ることが期待されます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 □ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○保育の記録等、詳細にわかりやすく作成され、子どもの育ちを職員間で共通理解しながら保育をすすめています。</p> <p>○保育の反省を通して個々の保育の振り返りはできていますが、自己評価は臨時職員も含め全職員が実施し、その上で保育の計画や改善にかかわる事案を園全体で共有することが求められます。</p>